



第56号  
平成27年8月  
発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会 佐原町並み保存会  
お問い合わせ 佐原町並み交流館  
電話 0478(52)1000

# ☆伊能ウォーク☆ 九十九里浜で 歩測と地図づくり

～小学生と交流し、忠敬を学ぶ～

全国測量に旅立つ前、第一の人生を送った下総地方の市町村と連携して伊能忠敬の業績をたどるといふ「伊能忠敬を知ろう・佐原入り人生ウォーク」事業が、五月二十九日(金)～三十一日(日)の三日間にわたりに行なわれました。

主催は伊能忠敬大河ドラマ化推進協議会、成田空港地域共生・共栄会議。

私達「考える会」は、生誕の地の九十九里浜で歩測の体験をした後、多古町から佐原入りをするまでのグループと、小学生が伊能忠敬の測量体験をするグループとに分かれて協力参加しました。

小学生に測量と地図作りを教えるため、まず自分達が実践しようと、二月以降、次



多田羅先生から測量法の講義

のような日程で研修を積みました。

二月二日、伊能忠敬記念館で測量器具の仕組みと「導線法」と「交会法」の講習を受けました。

三月九日、交流館で多田羅浩三氏



小野川周辺で測量の練習をする

(大阪大学名誉教授)の指導で観測結果を地図におこす方法の練習。正確な角度と距離を記録しないと大きなズレが起こることを知りました。

## 理事長就任のご挨拶

平成三年「佐原の町並みを考える会」が発足し三菱銀行佐原支店の旧本館をオープンさせて観光案内所を開設いたしました。前理事長の高橋賢一氏のご指導のもと、小野川の重要性に気づき「小野川と佐原の町並みを考える会」と改名して「佐原市景観地区建物調査台帳」の製作



特定非営利活動法人・小野川と佐原の町並みを考える会

## 理事長 佐藤健太良

からはじまり、建物年代別地図の制作、そして住民説明会と邁進いたしました。

私は、諸先輩方が古い町並みの保存と活性のため合意形成に努力していた「熱き思い」を伝える事ができたらと望んでいきます。この思いを胸に頑張ることにより、夢のある住みよい明る

い町並みを目指してまいります。歴史ある当法人の理事長という職は非才な私には重大な役目ではございますが、会員の皆様はもとより関係諸機関や団体の皆様と連携をとり、事業の進展を図ってまいります。

何卒、ご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(写真は、夏休み忠敬地図作りに参加した佐小六年生と共に)

三月二日、地図製作体験ツアー講習会。

四月九日、旧宅から小野川、佐原小学校下、与倉屋土蔵を回るコースを測量し、測量結果を地図におこす練習をしました。

いよいよ四月二十九日には、九十九里浜海岸で測量を行い、平坦でない砂浜に梵天を立てる工夫などを実習しました。(次頁に続く)

第一期NPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」  
定期総会にて  
新役員が決まる

平成二十七年五月二十二日  
(金)午後五時より佐原町並み交流館で行なわれた定期総会において、新役員が次のように決まりました。

- 理事長 佐藤 健太良 (新任)
  - 副理事長 石毛 麻理 (留任)
  - 副理事長 伊藤 待子 (新任)
  - 事務局長 加瀬 正人 (新任)
  - 佐原町並み交流館館長 高谷 正弘 (新任)
- 千葉県道路状況

調査業務報告書を提出

昨年十二月の第一回「まちづくり」提案委員会以後、「バリアフリー班」「自転車周遊計画班」「無電柱化班」「多言語班」「アーバンデザイン班」の五班に分かれて調査研究活動を進めてきました。七月十三日に最終報告が完成し、説明会が開かれました。三八頁にわたり佐原の景観地区の現状と問題点を写真入りで説明したもので、これからの町並み保存に有効な資料となること期待されます。

# 忠敬翁の偉業を学ぶ

蓮沼・大平小学校の  
六年生と砂浜を歩測

## 最初は戸惑いつつも

教室に戻り作図にかかりました。最初、子供たちには少し戸惑いがありましたので、案内班の一人ひとりが会員が、各班につき、指導・助言に努めました。

忠敬たち側量隊が過酷な状況下、いかに正確な作業につとめたかが理解できたことでしょう。

## 伊能隊参加者から一言

(吉田昌司さん) 歩測班を担当しました。各参加者は自分も忠敬になれたという充実感に溢れていた。

(新堀佐紀恵さん)

子供たちは測量の作業を分担して円滑に作業をやり終えた。教室ではやり直しながら完成させていた。

(保科千秋さん)

地図づくりは苦労があった。小学生が皆で協力してよくやった。



早朝から歩測班は入念な準備をする

(渡邊完三さん)

雨と風の中での測量を体験して忠敬の苦労がよくわかりました。

(平野光男さん)

悪天候の中、小学生はよくやった。地図づくりに真剣に取り組み、完成後は良かったという声が聞けた。

(根本香子さん)

生徒たちは電卓を手際よく使って計算していた。リーダーがいる班は出来上がりが少し早かったようだ。

(玉造 功さん)

少し教えるときばきと手際よく正確に仕上げていた。さすが六年生。

(伊藤待子さん)

初めてなのに、子供たちがこんなに上手に地図が描けるとは驚きです。雨がひどく、測量作業はやめようと思いましたが、よくがんばりました。九十九里と佐原とを結ぶ忠敬さんのことを学びに佐原へ来て下さい。



的確な助言指導で、測量作業がすすむ



星と地球楽校の参加者が来佐 8/2



教室に戻り測量結果をもとに地図にする



りりしい測量隊員が生徒たちを励ます

## 第三八回全国町並みゼミ 豊岡大会に参加して

石 毛 隆

六月十二日〜十四日に開催された全国町並みゼミ豊岡大会に出席した。「災害復旧」「町並みの活用」がテーマ。四カ所を会場にしたが、私は城崎会場に参加した。

城崎温泉は、三階建て木造の旅館の町並みで有名。大正十四年の北但大地震で町並みのほとんどを焼失した後、当時最新鋭のモルタル造り耐火策を兵庫県は提示したが、景観にこだわる町民は援助金が半分に減つても木造三階建てを主張した。最終的に、主流は木造に、何軒か置きにモルタル造りという案が通り現在の景観となった。

現在、旅館の後継者難と従業員不足が悩みの種。法律専門家や県職員と協力し、景観を損ねず営業形態を変えながら旅館法の規制に上手に対応している。ここにも先人の知恵が連綿と引き継がれている。

ある分科会で、私が佐原から来たことを知らない参加者が「今まで日本の町並みを見てきたが、佐原が一番良かった」と発言した時、私は本当に嬉しかった。佐原のことをさらに学び、佐原を訪れる人々の一助になりたいと決意を新たにしたい。

城崎温泉は、内湯が小さいので、沢山のお客様が共同浴場を利用しながら、浴衣姿で旅館街を行き交い、昔の温泉情緒を味わえる。

## 主な事業と交流館展示

二月七日〜三月二十九日

さわら雛巡り展示

三月七、十四、二八、二十九日 ポン

ネットバスで巡る佐原のまち

四月四日〜五月一日

佐原五月人形巡り展示

四月五日 骨董市(降雨のため午後

中止) 毎月第一日曜日開催

五月十九日〜三十一日 野口正博切

り絵「平等院に挑む」

二五日 小野川清掃

三十日 小野川両岸歩行者天国

交通整理、水生植物園シヤ

トルバス町並み案内開始

三十一日 小野川両岸歩行者天国

交通整理、六月六、十三、

十四、二十、二十一日、

六月一日〜七日 佐原の大祭・懐か

しのポスター展

九日〜十四日 新緑盆栽展

十三日 第一回散策しながら町

並みを楽しむ会

十九日 夕涼み用竹採取作業

二十日〜七月二十日

佐原の光景写真展(F

サークル四季彩、他)

二五日 夕涼み用竹灯り作り

七月 五日 骨董市雨のため中止

夕涼み用竹灯り試作

九日 三菱館保存検討委員会

十日〜十二日 佐原の大祭祇園祭

入場者 十日 二二二三三人

十一日 七〇九四人

十二日 七二二〇人

十三日 香取市長面談

# 伊能忠敬翁と奈良屋杉本家

## 佐原繁盛記 玉造 功

### 九代目奈良屋杉本家 杉本秀太郎氏逝去

さる五月二十八日の新聞各紙に日本芸術院会員の杉本秀太郎氏の死亡記事が掲載された。杉本秀太郎氏はフランス文学者で国際日本文化研究センターの教授などを歴任して名随筆家として有名。また「杉本家住宅」は二〇一〇年に京都でも最大級の町家として国の重要文化財に、翌年にはその庭園が国指定名勝となった。

この杉本秀太郎氏とは、現「きめらパーキング」の所にあつた赤い化粧煉瓦の奈良屋の、そして千葉市のニューナラヤの経営者であつた杉本家の九代目にあたる方である。

### 奈良屋と佐原

奈良屋が佐原に本格的に定着したのは、第二代杉本新右衛門が佐原下宿(しもじゆく)に初めて店舗を設けた明和元年(一七六四)のことで、忠敬翁が伊能家に入婿してまもない



在りし日の奈良屋の勇姿

頃。寛政元年(一七八九)に現「きめらパーキング」の地に土蔵造りの店舗を構えた。

奈良屋の経営形態は、「他国店持(たこくたなもち)京商人」と呼ばれるもので、京都の本店は経営管理、京呉服の仕入れや店員の募集・教育にあたり、店舗としては佐原、続いて佐倉、明治四二年には千葉に出店した。



杉本家の片隅に置かれた奈良屋のプレート

あの木骨モルタル仕上げ・化粧煉瓦張りのルネッサンス式二階建の洋風店舗は大正六年に清水組が施工した。

### 伊能忠敬測量隊と奈良屋

伊能忠敬測量隊が、第五次測量の途中、紀伊半島測量を終えて京都に入ったのは文化二年閏八月五日のことである。京都の町奉行所や代官所

との測量打合せを終えて、閏八月七日(一八〇五年九月二九日)の測量日記には「永沢藤治郎を綾小路新町西入奈良屋新右衛門方へ遣す。午後奈良屋新十郎見舞に来る」とある。市内測量を終えた閏八月十一日には「奈良屋新右衛門へ見舞直に帰る」と記載されている。永沢藤治郎は佐原の人で第五次測量のみ参加した。新右衛門は第三代当主で、新十郎はその嫡男である。

実はこのとき奈良屋では先代の新右衛門が亡くなった直後(一八〇五年九月十五日歿)。当主は服喪中のため、嫡男に忠敬翁の宿舎に挨拶に行かせ、それを受けて忠敬翁が杉本家を吊問し「直に帰る」ということになったのであろう。

伊能測量隊と奈良屋との関係はまだ続く。忠敬翁が第八次測量中の文化十年九月二日付けで長崎から佐原の家族に出した手紙に、九州各地の大名からの贈答品を換金したところ相当な金額になったので京都で奈良屋に渡して為替にし、奈良屋佐原店から佐原の家族に渡すようにしたいかと相談している。

また第八次測量の帰路、忠敬翁が京都から出した手紙には、佐原に住む娘の妙薫たちが文化十年末に京都の奈良屋新右衛門方気付で出した手紙を、翌年一月二十六日に京都に到着して読むことができたのである。

西日本測量中の忠敬翁は、佐原の家族との手紙や金銭のやり取りに奈良屋をよく活用していたようである。

### 京の町衆文化を

### 発信する奈良屋杉本家

杉本秀太郎氏の父である八代目の郁太郎氏は千葉市のニューナラヤの経営者として活躍したが、著書「奈良屋式百年」の序文に「世襲財産的に同族が奈良屋を経営するのも筆者が最後であろう」と記している。

その言葉通り、九代目秀太郎氏はフランス文学の道を進み、平成十三年には千葉市のセントラルプラザを閉店、他国店持京商人としての奈良屋の二百六十年余の歴史に終止符を打った。

だがその一方で、京の文人と呼ばれて、「洛中生息」「花ごよみ」など珠玉の随筆を世に残し、祇園祭の伝統維持に努め、奈良屋記念杉本家保存会を設立して、杉本家住宅の保存と公開に尽力し国の重要文化財指定に至った。



杉本家住宅と祇園祭の伯牙山。杉本家の主屋は幕末の禁門の変で焼失し、明治三年に再建された。祇園祭では伯牙山のお飾り場として使われている。

この七月、一般公開された際には、私も多くの見学者と共に京町家の夏の室礼(しつらい)に見入った。

十八日 第二回散策しながら町並みを楽しむ会、タイ留学生研修  
二十日(三十一日) 多摩美術大学  
学術展示「さわらいく」  
八月二日 身近にお茶を楽しむ会  
(香取市国際交流協会)  
三日(十九日) 佐原・大祭・母  
と子と(北澤聖江・洋画展)  
八、十五、二十二日 盆フェスタ  
十三日 ギリシャ留学生研修  
二十一日(九月五日) 佐原モラ  
作品展(パナマ伝統手芸で描  
く佐原の町並みと大祭)

### 白楊高校生徒30名が

### 佐原の文化を発見する会

八月四日、午前十時より二時間、山車会館と町並みを巡りました。



忠敬橋際にて、佐原の繁盛ぶりを説明する案内班長の越川悦子さん

さらに十代目を継いだ杉本節子氏は、NHKの料理番組などで京の町家の暮らしを世に広めている。いま、奈良屋杉本家は、京の町衆文化の発信地という新たな役割を担っている。佐原の住民として奈良屋杉本家との縁を大事にしていきたい。

町並みを歩いて(その十一)

### 重伝建地区の隠れた魅力を発掘

伊能景晴(節軒)と

小野川(旧称・佐原川)

伊能忠敬旧宅前から樋橋を渡った忠敬記念館の角に甘味処「遅歩庵」がある(写真)。現在も伊能茂左衛門家の血脈を継ぐ家柄である。

以下、佐原市史を参考にして記述すると、十一代目景晴(文政五年、明治十八年)は、晩年は節軒と号して幕末から明治の初めの佐原の最有力者であった。

次女の「いく」に、姻戚にあたる上総武射郡屋形村(現横芝町)の海保長左衛門の三男景文をむかえて忠

### 生涯学習の研修で

豊かな教養と博識、深淵とした魅力的なガイドには感服いたしました。受講者は皆佐原のすばらしさを実感したようです。(千葉生涯学習センター)

参加者の感想  
○昼食の時に一人で町歩きをしました。

○お店の人に蔵の中や中庭まで見せていただきました。長い間大切に店を守ってきた努力に感銘しました。



敬の孫忠誨(ただのり)の後嗣として十三代三郎右衛門家を再興した人であり、賀茂真淵の弟子中、県門四天王と称された楯取魚彦の曾孫である。

天保七年、佐原の凶作の際には、窮民に毎朝粥を炊いて与え助けた。文久年間の水戸天狗党浪士が佐原を襲った時には、清宮秀堅らと共に折衝の労を尽くした。

明治期には、醤油醸造を盛んにしていたが、醤油は船でしか大量輸送できなかったため大正期を過ぎるとやめてしまった。

### 「小野川」の命名者として

また明治初め、水害を除くために利根川の流路の変転や堤防の補強に意を尽くし、村の中央を流れる川の整備・改修に尽力した。

それまで、佐原川とか舟戸川とか地区により呼び方に違いのあったこの川の名を、その源流である小野村にちなんで新しく「小野川」と命名したのは伊能節軒である。

○もう少し自由時間があればと、楽しいお店も沢山あったのに残念でした。

○佐原の歴史、町並み、人情、全てがよかった。

○佐原は「小江戸」ではない。

### 観光案内に感謝の礼状(その14)

やはり「江戸まさり」なのだ  
と痛感しました。

### 総合学習を終えて

佐原の町並みや伝統の祭、伊能忠敬の生涯を詳しく説明して

### 伊能忠敬の全国測量(第三次測量)

### 北国筋から羽越へ、子午線一度を二八・二里と算出

享和二年(一八〇二)六月十一日

(陽曆七月十日)、出発前に浅草司天台を訪ねると、至時先生は「もし途中で病気になるたらすぐに帰るよう」と忠敬に申し渡した。

隊員は平山郡蔵、尾形慶助、伊能秀蔵と新しく天文方の大平雄助、下働きの久兵衛、兵助の若者六人。

次の宿で、郡蔵が服薬を忘れたのに気づき届けさせるといふ一幕もあって宇都宮、喜連川、佐久山、白川へ。

二五日に猪苗代湖を舟で遊覧。二七日は会津城下。七月一日、大塩村で谷あいの井戸水から塩を炊くの見学し峠越えて米沢から山形へ。

秋田との領界、雄勝峠では、人を囁むアブが出て難儀するぞとおどされたが、無視して無難に通過した。

七月二四日、野代湊で日食測量準備。八月一日は雲が多く、大・小観星鏡での観測は不調に終わった。

八月八日、弘前に入ると、町役人の出迎えなく、宿も相宿で粗末な食事。こんなことが奥羽地方に入り度々。

三蔵は三度目である。秋田より日本海岸岸を下。狭い道を荷物を背負い長持ちなどは舟で運んだ。

九月十日、蒸気を噴出する鳥海山を見つつ、九十九嶋と呼ばれていた松島と並ぶ名所・象潟湾内諸島を測量した。

その後、文化元年六月四日(一八〇四年七月十日)に津波を伴う地震があり、象潟湾は隆起して陸地と化した。

### 忠敬怒る、鉢崎関所始末

九月十八日、忠敬発熱。難所多く舟の移動が続く。新潟では古町の賑わいを見る。十月二日、柏崎から高田領の笠嶋村に到着すると、鉢崎宿の組頭が来たので、忠敬は荷物を止宿先へ送り身を軽くして測量をしたいと言おうと、組頭は「関所があるので荷物はいいが長持ちの蓋は開け中を改めさせてもらいます」と。忠敬は「これまでどの関所でもそういうことはなかった。ここだけを例外にはできない」と反発したので、鍵だけを預かり錠に通した状態という妥協案が出た。関所前で測量を始めると役人たちは無礼にも羽織袴も着けず、帯刀もせず出て来て「御関所前を勝手に測量するとは不埒である」と怒鳴ったので、「これは以外。われらは幕府御用であり、御料私領寺社領の差別なく測量できる」と対抗した。

翌日、関所役人が来て「内々に」と落着。一行はここから内陸部へ、善光寺、中山道を経て、浅草堀着は十月二三日(陽曆十一月十八日)。一三二日の旅であった。

第二次測量後に算出した子午線一度二八・二里という数字を至時先生が認めてくれたため「私を信用しないのなら、もう測量はできない」と忠敬は立腹した。第三次測量の結果も同じであった。至時自身「フランス暦書」の数字を尺に換算し忠敬が正しいことを知った。